

学校の概要		学校名	茅野市 立 湖東小 学校	学校長	植松 満幸	児童生徒数	215 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		○				
				自治会代表		○				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○				
				PTA代表		○				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○				
				学校長・教頭以外の学校職員		○				
				ボランティアと学校の情報交換会がある						
				ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	湖東小コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)				
				・主任児童委員 ・民生児童委員 ・読み聞かせボランティア代表 ・学校医 ・わくわく講座代表		地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人				
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月16日(月) 令和4年10月6日(木) 令和4年11月28日(月) 令和5年2月16日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 歴代PTA会長会会長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		元気な子 考える子 やさしい子								
地域と共有された育てたい子どもの姿		「元気な子」・よく遊び、健康でたくましい子 ・すすんであいさつができる子 ・豊かに表現できる子(歌声・言葉) ・見通しをもって自主的に行動できる子 「考える子」・自分の考えをもち自分で判断できる子 ・思いや考えを伝え合い共に学び合う子 ・主体的に粘り強く取り組む子 ・地域の人とふれあい視野を広められる子 「やさしい子」・友達とよさや違いを認め合える子 ・自分も友達のこと大切にすること ・思いやりの心をもち相手に寄り添える子 ・よりよいものを求めようとする子								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	66 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		参加者延べ人数	500 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例							湖東コミュニティスクールの取り組み ・SNSを利用した情報の迅速な共有(写真は田植え: 苗が不足したが、すぐに手配できた)		
わくわく講座・生け花		(6/28 9/27 10/18 11/10)		湖東たまてばこ(読み聞かせ)		(6/7 7/12 10/11等)				
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)										
●湖東コミュニティスクールの取り組み										
(1) SNSの活用										
5年で田植えをした際、苗が不足する事態となった。コミュニティスクールで開設しているLINEグループで呼びかけたところ、その日のうちに苗を田に持ってきてくださった方がいて、大変ありがたかった。通学時の防犯ボランティアを募集したところ、参加して下さる方がすぐに見つかり、人数が増えた。										
(2) 投書箱「You Say ポスト」のお返事号に寄稿いただく方の幅が広がった。子ども達から寄せられた質問に対して、学校職員だけでなく保護者や地域の方など立場が異なる大人が回答することで、子どもも大人も多様な考えに触れることができるようになった。										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題										
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
(1) コロナ禍であってもできる活動を工夫しながら運営(例: わくわく講座の回数や実施方法) 地域の方とともに学ぶ「わくわく講座」について、「回数を限る」「参加学年を5, 6年に限定する」「1回あたりの活動時間を短縮する」「郷土料理は調理過程を簡略化したり、その場で食わず持ち帰ったりする」など工夫しながら、育てたい子どもの姿に向けて連携できた。回数や活動時間の縮減はやむを得なかったが、もう少し増やせる工夫をしたい。										
(2) 子ども・保護者・地域の方が互いに相談できる仕組みを持続可能に 投書箱は、中心になって進めていただく方に仕事が集中しないようにしなければならない。投書に回答する人が増えてきているので、さらに進める。										